

<b>Title</b>	ラーニングセンター報告：10年間の流れからの近年の学生変化と今後の課題
<b>Author(s)</b>	尾張, 宏一
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.25No.2, 2016.3 :24-25
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5623">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=5623</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

# ラーニングセンター報告

## -10年間の流れから近年の学生変化と今後の課題-

### はじめに

2005年度に学生の学びのサポートを目的に作られたラーニングセンターは、開室10年という一つの節目を迎え、2015年度にはラーニングコモンズと組織統合された。利用者数も年々増加し、2016年度にはより広いスペースに移動し、個別指導のほか、アクティブ・ラーニングや自主学習ができる環境に整備される。

### 1. 10年間の利用者数推移

2012年までの利用者数は200～400名程度の平均的人数推移であったが、2013年度より一号館1階に場所を移設し、国語・数学・英語の主要三科目が学べる体制が整った。その結果、相談内容も広範囲となり来室者増加に繋がった。同年、一号館1階を学周長屋と称しラーニングコモンズも設置され、学内における学びのサポート機関としての位置が定着した。2014年度からは、国語と英語の二科目体制になったが、eラーニング「ハコブネ」を導入し、主要五科目の学び直しもラーニングセンターを利用せず、手軽にオンラインできるようになった。2015年度は、ラーニングコモンズと組織統合し、英語指導教諭2名体制で運営している。

### 2. 2014年度相談内容

相談内容の約半分は、「勉強方法」がわからない、大学の講義にどのように対応していったら良いのかという質問が多かった(表2)。高校時代の受動型学習方法から抜け切れず、高等教育である大学講義をどのような姿勢で臨んでよいか理解できない学生が増えた。大学生生活がつまらないという感情が、不登校、離学へと繋がることに危惧感を持ち、来室学生には個別に丁寧な対応を心掛けた。不安を払拭することが大学生生活を満喫できるひとつの要素であることが見受けられた。大学での課題の大半はレポート提出を義務付けられているため、国語力・文章力の不足している学生たちには、文章の読解から要約の仕方と書き方のヒントを与えることで、個人の力でレポートを完成できるように至った。また、余裕の出てきた学生は引き続き、ラーニングセンターを利用しながら、高校時代まで苦労していた英語基礎力を再度学び直そうということで来室する学生も大幅に増えた。その他、キャリアサポートや学部との連携で就職試験対策や資格取得対策(漢字検定、英語検定、SPI等)をラーニングセンターで指導した。

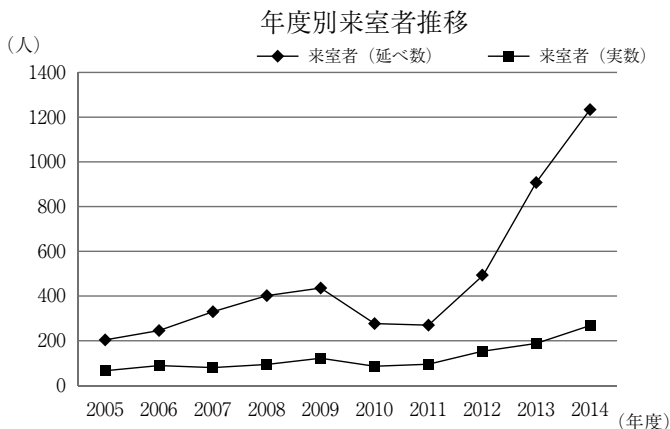


表 1 年度別来室者推移 (2005年度～2014年度)

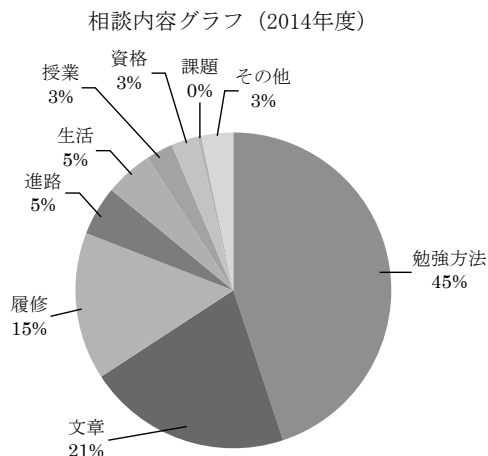


表 2 2014年度相談内容グラフ

### 3. 考察

学生の質の変化を敏感に感じ取り、ひとりひとりの学生に合った指導方法を模索する事が大切であることを痛感する毎日である。大学の講義のように大箱での対応に慣れていない学生も多くなってきた。個別対応のできるラーニングセンターがある意味、そういった学生達のオアシスとなっている。また、学生相談室やオリープディスクに行くまでもない、ちょっとした問題や質問もラーニングセンターで吐露している。話を聞いてくれる教員、職員が常時待機している場所があるということが、今の大学という枠内では必要な場所となっていると確信する。

### 4. 今後の課題

ラーニングセンターの知名度が上がって来室者が増えたといっても、まだまだ知らない学生たちも多数存在する。4年生になって初めて来室し「もっと早く知っていれば…」という言葉は何回も耳にした。昨年度から始まった入学前準備学習は、ラーニングセンターが担当しており、入学前から

新入生と関わることで、入学後も気軽に利用できる雰囲気を作り出している。各学部での初年次教育においても、いくつかの学部でラーニングセンターを取り上げてもらっている。今後もPRを重ねて、気軽に利用しやすいラーニングセンターを目指したい。

また、就職に直結するSPI試験対策や公務員試験対策など、特化して講座を開き、個別指導ができるよう準備していく次第である。

(文責：尾張宏一 [おわり・こういち] 聖学院大学ラーニングセンター所長)



個別学生指導